

「塩田城、福沢諭吉と宮原清」を読んで

宮原 豊（9組）

関西同窓会の関口貞雄さん(48期)がHPに投稿された「塩田城、福沢諭吉と宮原清」(①9月29日、②10月6日)を読ませていただきました。丹念に調べられていて、正直に言えば、今まで考えたこともなかったことを教えていただき、まさに「目から鱗」でありました。

九州大分・中津藩の下級武士の家に生まれた福沢諭吉の先祖が信州の人で、晩年に家族や門下生とともに信州を訪れていたとは知りませんでした。関口さんに教えていただいた「信州と福沢諭吉」(丸山信著)には、①福沢諭吉が建てた福沢記念碑の冒頭に「福沢氏ノ先祖ハ信州福沢(地名)ノ人ナリ…」と記され、②福沢諭吉は明治29年11月6日～11日に家族と門下生を同伴して信越を旅していることが紹介されています。福沢諭吉は長野師範学校で演説、藤屋に投宿、善光寺を参詣。越後・高田にて演説。小諸経由で佐久・野沢に赴き演説したことは、当時県内では大きな話題になったそうです。

福沢諭吉が上田に立ち寄った形跡はないものの、これが長野県中学上田支校に在学していた宮原清に影響を与え、後に宮原清が慶應に入学し、第1回早慶戦で活躍することに結びついたのでないかと、関口さんは推測されています。宮原清は明治29年4月長野県中学上田支校(現上田高校)に入り、同級の桜井弥一郎、清水長之助らとともに同校野球クラブ設立に参加。32年4月に慶應義塾普通部5年編入、翌年に慶應義塾に入学、幸いにも最晩年の福沢諭吉の薫陶を直接受けたそうです。長野県出身の先輩前島繁太(明治26年慶應義塾入学)らが設立した慶應義塾野球部に、母校上田中学の桜井弥一郎(1期卒)らを勧誘。桜井は第1回早慶戦(明治36年)で栄えある勝利投手となっております。

宮原清は青木村田沢温泉に男3人兄弟の真ん中に生まれましたが、私にとっては「大阪の大叔父」であり、子供の頃から清翁のことは何回も聞かされてきました。早慶戦での活躍、社会人野球連盟会長、野球殿堂入りしたことなどです。しかし、あの時代になぜ上田中学から慶應義塾だったのか、家族内でも聞いたことがありませんでした。しかし、どうも福沢諭吉の信州旅行と関係があったのではないかと言われてみれば、塩田城址が距離的に清の幼少時の遊び場であったかどうかはともかくとして、いくつか思い当たる節があります。



私自身は生前の宮原清に会ったのは2回だけですが、子供ながらにその印象をはっきりと記憶しています。最初は田沢温泉を訪ねて来られた時、2度目は中学2年生の時に父親に連れられ大阪に旅行し、宮原清邸に泊めてもらった時です。この投稿記事が切っ掛けで55年ぶりに又従弟に再会しました。ずっと音信不通状態でしたが、あの人この人とファミリー共通の名前で話が通じるから会って直ぐに打ち解けました。これも関口さんのお陰と感謝申し上げます。

(2018年10月18日記)

(添付の写真: 最近の田沢温泉)